

はじめに

- 横浜市都市整備局では、福祉の視点からバスへの関心を啓発し、利用を促進するため「交通バリアフリー教室」を行っています。並木第四小学校では、京浜急行バスと連携し実施しました。
- 並木第四小学校は、金沢シーサイドライン 幸浦駅を最寄り駅としており、都心部までは一度乗り換えていく地域です。駅に近い地域のため、駅までは歩いたり、自転車を使ってお出かけする子どもが多くみられました。

1 交通バリアフリー教室の全体概要

- 交通バリアフリー教室は、横浜市都市整備局が担当する「バスのバリアフリー」に関する座学とともに、実際のバス車両や車いす等を使った体験授業も行われました。
- クラス別に、①バス車両を用いた車いす利用体験・介助体験、②運転席からの死角の体験、③バスのバリアフリーに関する座学を行いました。
- バリアフリーを始め、バスに関する様々な“知識”と、実際の“体験”を同時に行うことで、子どもたちのこれからの生活の中で「活かた知識」として根付くことを期待します。
- 横浜市都市整備局は、③の座学において、**バスのバリアフリーの現状や、モビリティマネジメントの大切さ**を伝えました。

■交通バリアフリー教室について

【日時】平成29年10月17日(火)
第1～2校時(8:50～10:40)

【対象】並木第四小学校
4年生1～2組(65人)

【内容】①バスを用いた車いす利用体験・介助体験
②バスの死角体験
③バスのバリアフリーに関する座学
→クラスごとに分かれて実施



2 「バスのバリアフリーに関する座学」の内容

- 座学では、「もっと知ってほしい バスのこと」と題して、車いすの方もお年寄りも、「誰もが使いやすい」を目指して取り組んできた、**バスのバリアフリーの現状**を中心に授業を行いました。
- その中で、バスの利用者が減少していくと「**バスが将来、無くなってしまう**」可能性もあることを、マンガリーフレットを用いて伝えました。
- 駅に近い地域のため、バスを使う子どもは少ないようでしたが、例えば塾に行くとき、習い事に行くときなど、バスを使って子どもだけでお出かけすることもあるようです。
- クルマが運転できるようになった後も、「**便利なクルマに頼りすぎず、今と同じようにバスで行ける所はバスで行くこと**」を日頃から心掛け、家族や友人などと少しずつ実践してほしいことを伝えました。
- 将来的にバス事業が継続していくためにも、「**行き先や状況に応じて、バスを上手に使うって暮らす**」ことが大切であることを伝え、授業を終えました。

■座学に用いた教材

①説明用パワーポイント:もっと知ってほしい「バス」のこと



②小学生向けマンガリーフレット



おわりに

- 今回の交通バリアフリー教室はあいにくの雨でしたが、校舎の軒先を使って無事に開催することができました。実際の体験を通じて、**車いすで移動することの大変さ**とともに、**移動の介助の難しさ、大変さを肌にした子どもたちがたくさんいました。**
- 子どもたちがバスへの関心をもち、**これからもバスを上手に使い、またバスで困っている人をサポートするきっかけ**となる「交通バリアフリー教室」となりました。
- また、運転席に座ってバスの死角について学んだり、バスの運転手さんと積極的に交流するなど、バリアフリーの事だけでなく、バスの様々なことを学んでいました。
- 子どもたち自身もいつも以上にバスを身近に感じてくれた1日になったと思います。



校舎の軒先を屋根替わりに。



座学①



座学②



体験学習前のオリエンテーション



バスの前にある死角



後部ドアの車いす体験



普段はあまり話せない運転手さんやバス会社の方と交流する機会にもなりました。バリアフリーに限らずバスへの疑問を質問する子どももいました。

車いすに人を乗せてバスのスロープを登ったり、降りたりするのは、とても力が入ることです。体験後の子どもたちは、大変だった、降りるときに怖かった、と話していました。

